

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第67号 2015年6月

発行人：吉田 博行 編集長：地田 博昌 事務局長：安藤 孝
事務局：〒152-0002 目黒区目黒本町6-4-16 Tel 03-3716-7477

2015年定時総会開催のご案内

2015年目黒稲門会定時総会を、下記の通り開催致しますのでご案内申し上げます。公私に渡りご多用の中と存じますが、是非ともご参加のほどお願い申し上げます。

総会では、2014年度事業実績報告、決算及び監査報告、2015年度事業計画、予算案等の審議を予定しております。

第2部の懇親会では、母校より「コール・フリューゲル」の4名を招き、合唱をお楽しみ頂きます。夏本番のひとつ、大いに語り合い、新年度の活動のスタートにしたいと存じます。また当会自慢の活発な部会活動には、ご家族で参加される方も多く、定時総会もご家族ご同伴にて新しい出会いを楽しめますようお願い申し上げます。

なお、ご参加の皆様には、例年通りクールビズ、スーパークールビズにてご参加賜りますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 2015年7月12日(日)
受付開始 15時30分
総会・懇親会 16時～19時
2. 会 場 目黒雅叙園 2階「華しずかの間」
目黒区下目黒1-8-1
TEL 03-3491-4111(代表)
3. 交 通 JR山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線、目黒駅下車徒歩5分、東急バス権之助坂・日の出学園下車3分
目黒駅からの迎えバスの運行はございません。雅叙園よりの送りバスの運行がございます。
4. 会 費 10,000円、ご同伴家族 5,000円
当日会場受付にてお支払い下さい。
当日キャンセルの場合、予約の都合上、会費のご負担をお願いします。
5. ご出欠 会報に同封の葉書にて、6月26日(金)までにご連絡下さい。(田島 記)

【早稲田大学コール・フリューゲル】

1949年に結成された早稲田大学の男声合唱団です。団名の「フリューゲル」はドイツ語で「翼」。古今東西、多様な楽曲に挑戦しています。

NHK『課題曲を歌おう』の参考演奏等、幅広く活動しています。



各部会からの案内・報告

囲碁部会

現在囲碁部会の登録メンバーは15人ほどですが、毎月の出席者は10人を切る事が多い状況です。

今年の3月には明治大学囲碁部の女子学生をインストラクターとして招き、対局や指導碁をお願いしました。この日は出席者も10人と賑やかな会になりました。

今年の秋にも早稲田大学囲碁部の学生を招き、指導碁をお願いしたいと考えています。

因みに早稲田大学の囲碁部は5月に行われた関東大学囲碁大会で男子が優勝、女子が2位と立派な成績を残しました。

今後は会員総数の拡大を目指さなければいけません。特に会員の奥様で囲碁をおやりになる方、大歓迎ですので皆様方のお声かけをお願いいたします。

囲碁部会長 永田耕治

若木会

——目黒川お花見会——♪

3月28日(土)、目黒川の桜の下でお花見をしました。若木会のメンバーに加え、目黒稲門会の先輩方と現役学生も加わり、参加したみなさんの平均年齢は40.6歳と、まさに「心の若木会」にふさわしい楽しい会となりました。

この日、気まぐれな春の天気も幸いに晴れ、川沿いの道は大勢の花見客でにぎわっていました。兩岸の桜から落ちる花びらが水面をゆっくりと流れていきます。保井正先輩が「赤い橋まで行こう」といい、約1時間、思い思いに語りながら歩きました。赤い橋は中の橋といって、有名な撮影スポットのようです。川と桜、水面に映る赤い橋の組み合わせは印象的な風景でした。

その後、赤い橋を渡って逆の岸を歩いて戻り、途中にあるイタリアンのお店ティ・ピッキオ(保井正先輩のご紹介)で食事会。美味しいワインと食事を楽しみながら窓から見る桜は格別なものです。食材も産地からこだわったものだそうで、身体に優しい味わいでした。今回お越しになれなかった会員の方も、ぜひ一度足を運んでみてください。若葉の樹々に抱かれる目黒川もきっと素敵なものと思います。

今回の花見は吉田博行会長をはじめとする先輩方に加え、村上 柁先輩の奥様や、前田 眸さん、神谷佳奈さん、出崎毅哉さんの3名の学生、さらに田添麻友さんの4歳のお子様も参加してくれました。新婚の中西元樹部会長もご夫婦で参加されました。若木会は世代や社会的な立場を超えて交流できるユニークな場として充実しています。

季節は人生にも似て、桜は春の訪れとともに咲き、今は初夏の緑芽吹く季節を迎えています。美しい満開の時間を過ごし、響きあう万緑の夏、稲穂実る秋へと、私たちも世代を超えて人と人を紡ぐハーモニーを求めていけたら—そんな素敵な夜となりました。



笠谷興一朗

麻雀部会

4月13日(月)12時30分より武蔵小山 雀荘・サンにて知能と脳力アップそして強運を呼び込むゲームが12人の雀士にて、半チャン4回4時間の熱戦の火蓋が切られました。

1～3回は籤で決められたメンバー、4回戦目は得点順にて、A,B,C卓に別れ優勝を目指し、麻雀は運だ、いやツキだ、腕だ、はやき声でかし……。

優勝者は4回優勝した小倉氏がまたもや優勝。商品券、ウイスキーを獲得した豊かな気持ちで優勝の弁を頂きました。準優勝は猪名川氏、3位、村上氏が商品券を射止めました。

その他ラッキー7、BB、水平、最多賞もあり和気藹々17時過ぎにお開きとなりました。

次回大会は6月22日(月)、サンにて12時30分スタートです。(6月15日から6月22日に変更になりました)

12名、16名参加の大会が主流ですが、老若男女大いに期待と不安を持ちながら奮って当会にご参加下さい。一度20名大会を目指します。

麻雀部会長 鶴野洋治

ウォーキング部会

今年の夏はどんな気候になりますか。今年は気候が定まらず、皆様も体調維持に苦労されたと思います。実績と予定をお知らせいたします。

実施報告

- | | |
|------|----------------|
| 3月例会 | 府中、国分寺を歩く |
| 参加 | 13名 |
| 4月例会 | 鎌倉三十三観音めぐり 第2回 |
| 参加 | 14名 |
| 5月例会 | 江戸の名残の赤坂付近 |
| 参加 | 12名 |

予 定

- | | |
|------|----------------|
| 6月例会 | 鎌倉三十三観音めぐり 第3回 |
| 日時 | 6月16日(火) 午後1時 |
| 集合場所 | J R鎌倉駅改札外 |
| 7月例会 | 目黒駅から天空公園まで |
| 日時 | 7月21日(火) 午後2時 |
| 集合場所 | J R目黒駅改札外 |
| 9月例会 | 鎌倉三十三観音めぐり 第4回 |
| 日時 | 9月15日(火) 午後1時 |
| 集合場所 | J R鎌倉駅改札外 |

以上小雨決行です。参加される方は下記までご連絡ください。

牧野連絡先 携帯 090-9649-6868
ウォーキング部会長 牧野武夫

美術・歴史鑑賞部会

第50回は3月4日(水)、東京都美術館『新印象派—光と色のドラマ展』でモネ、スーラ、シニャック、マチス等の作品を鑑賞しました。

新印象派の特徴は、1880年代半ばから1900年代初めにかけて活動した点描技法を用いた画家たちで、彼らは“色彩を小さな点に分割する新しい技法。観る人の目の中で混ざるよう置かれた小さな点は、色彩の輝きと光の効果を高めるもの”を追求。スーラの「セヌ川、クールブォワ」、シニャックの「髪を結う女」、ピサロの「エラニーの農家」等の名作約100点が展示されていました。

鑑賞後、参加者14名で上野公園内にある精養軒にて昼食(カレーライス、ハヤシライス)を。

第51回は4月22日(水曜)ブリヂストン美術館『ベスト・オブ・ザ・ベスト』を。美術館新築工事のため数年休館になるため、ブリヂストン美術館所蔵のベスト作品展示会を鑑賞しました。

青木繁「海の幸」、セザンヌ「サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール」、セザンヌ「帽子をかぶった自画像」、ピカソ「女の顔」、マネ「自画像」、ルノワール「すわるジョルジエット・シャルパンティエ嬢」等の代表作品に感激した半日でした。

参加者9名で京橋の“美々卯”で蕎麦、うどん、筍御飯を食べました。



美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦

カラオケ部会

カラオケ部会も回を重ね、今年5月で155回となります。以前のことは定かではありませんが、定例部会は8月をお休みとすると年11回の開催で、それを前提として単純に計算すると開始から14年を経過したことになります。

ところで役員会が5月で180回目、ちょうど15年という節目にあたり、我がカラオケ部会もほぼ同時期にスタートし、目黒稲門会とともに歩んできた歴史があります。これからもその歴史を大切に、引き継いでゆきたいと思います。

歌われた曲はパソコンのリストに入力し、全て個人別に記録されます。手元にある資料を見ると部会で歌われた曲は累計2000曲を越えました。(各人同じ曲は除外)

このうち昨年12月から今年の3月までの4ヶ月間に歌ったのは新曲を含め162曲でした。この元になる記録リストは海口さん(元部会長)から引継いだもので現在もこれを改訂し更新しています。

部会は毎回「都の西北」または「紺碧の空」を全員で合唱し、「フレー、フレー、早稲田」と「フレー、フレー、目黒」で締めくくります。

最近参加された方が応援パフォーマンスを披露、力一杯、締めの音頭を取ってくれるのでさらに盛り上がっています。

<27年度の活動予定>

開催日 : 毎月第2金曜日(8月は休み)

開催場所: コートダジュール目黒駅前西口店

開催時間: 16時~19時

皆様のお越しをお待ちしております。

カラオケ部会長 梶 恵作

早稲田スポーツ観戦部会

—2015早慶レガッタ観戦記—

4月19日(日)時々小雨がぱらつく隅田川で行われた恒例の早慶レガッタ定期戦を12名の会員と応援観戦に行きました。桜橋の上では新宿、杉並、練馬と我が目黒稲門会がのぼりを立て、早慶の校友の方々が大勢集まり、両校の応援部とともに熱い声援を送って大会を盛り上げていました。

メインレースの第1エイトは3年続けて慶応に負けており、雪辱戦の今年は素晴らしいスタートを切りそのままリードを保ち、2艇身以上の差をつけてゴールしました。

しかしゴールの後、審議が行われ、言問橋下流で早稲田艇がコース外を通過した事により失格となり慶応の4連勝が決まりました。レース終了後、その審議結果を知らない私達は「食べ歩き部会」に合流し祝い酒を美味しくいただき浅草の夜を大変楽しく過ごす事ができました。



早稲田スポーツ観戦部会長 狩野俊夫

食べ歩き部会

2月7日（土）に数寄屋橋の「佐藤養助」という稲庭うどんのお店で食べ歩き部会を実施しました。元は「出井」という料亭だったお店ですので、内装も赤を基調として風情があります。

先付け、お造り、焼き物（鯖の木の芽焼き）、蒸し物（黒豚と比内地鶏の茶碗蒸し）、とコースが進んだ頃にはお酒もずいぶんとまわり、席も入れ替わって大変なにぎやかさでした。

メインの比内地鶏の水炊き鍋はあっさりとした味わいで、おいしくいただきました。

締め稲庭うどんのせいろはさすがお店の看板だけあって絶品でした。醤油たれとゴマたれの2種がありましたが、ゴマたれが香りも良く、特においしく感じられました。

参加者は14名でした。



4月19日（日）の夕刻から、早稲田スポーツ観戦部会との共同開催で食べ歩き部会を浅草の天ぷら屋「葵丸進」で開催しました。

4年ぶりの早慶レガッタ勝利を祝う、狩野早稲田スポーツ観戦部会長の乾杯でスタートしました（このときはよもや失格負けとなっているとは知るよしもありません）。

先付け、八寸、刺身、煮物、天ぷらのコース料理をいただきながら、お酒も程よくまわり、和やかな歓談のひと時を過ごしました。

締めのお食事は桜そばと珍しいものでした。参加者は15名でした。



食べ歩き部会長 猪名川一雄

俳句部会

第71回「萩句会報告」

日時 2015年4月13日（月） 14時～17時

（順不同）

保井 寶正	草千里末黒に染めて息吹まつ
川井 素山	花筏割れて二筋帯のごと
青木 英林	山葵田に伊豆の踊り子裾絡げ
後藤 克彦	遠き山より遠く見ゆ春霞
佐久間 喬	トンネルの先に咲き満つ花辛夷
佐々木彩女	宵宮の風にかそけき神楽笛
永井 正孝	一服の背中が語る花疲れ
吉田 啓悟	仏像の裾の暗闇桜ちる
丸山 酔宵子	一陣の風に渦巻く花筏
牧野 里山	塔頭の突き抜けて見ゆ春かすみ
佐久間たか子	物思う月夜に浮かぶ花筏
菊地 崇之	昼餉時目刺し茶漬け目も細む
佐伯 武雄	逃げ水に映る七十路乃伸ばす羽
大山 龍海	風温し老いの心に芽吹きあり
山本 草風	月照らす辛夷の花を舞妓とも
金森 純女	こもればやかたくりの花揺れやまず
中山 すえみ	逃げ水や問うてみたいや摩訶不思議

俳句部会長 佐久間 喬

ゴルフ部会

ゴルフ部会が発足して今年で16年目を迎えます。

去る4月21日（水）第36回ゴルフ部会を千葉県の名門、姉ヶ崎カントリー倶楽部において開催しました。

当日は、心配された雨も上がり爽やかな新緑の中19名が参加、澆刺とプレーしました。

優勝、狩野俊夫氏、2位、吉野博明氏（初参加）、3位、保井栄子氏という結果になりました。表彰式、往復のバスの中、ワイワイと楽しい一日を過ごしました。次回は、10月21日（水曜日）茨城県のサミットゴルフ倶楽部において開催致します。



ゴルフ部会長 大杉邦雄

特別寄稿

東日本大震災激励ツアーに参加して



吉本政治（昭和41年 商）

去る3月22日～23日、校友会23区支部主催の第4回東日本大震災激励ツアーに参加してきた。参加者は仙台稲門会からの特別参加1名を加え総勢34名。訪問先は石巻市、南三陸町、陸前高田市、大船渡市で、テレビ等よく取り上げられた地域である。

震災から4年経った現在、被災地では交通網や市街地の整備が急ピッチで進んでおり、復興は表面的にはかなり進んでいるように見受けられた。しかしながら、なお23万人近い人が避難生活を余儀なくされており、用地の確保、人手不足、資材の高騰など住宅再建は思うように進んでいないようだ。

最初の訪問地、石巻ではボランティア・ガイド「語り部」が案内してくれた。「地震が発生してから間もなく湾の水が引き海底が露出した。それから数分後、ゴーという地鳴りとともに津波が押し寄せてきた」。「ここにコンビニが、向こうには病院がありました」と被災前の街並みと津波によって破壊された様子の写真を見くらべながら説明してくれた。しかしながら、元の街並みを知らない我々にはいま一つ臨場感はなかった。被害の大きかった海岸沿いにはもう瓦礫は残っておらず、大型重機、ダンプカーが忙しく動き回っていた。

我々は南三陸の海岸縁に立つホテルに宿泊した。部屋から眺めた夕暮れの海は本当に静かで、ワカメや牡蠣の養殖いかだが4年前に何事もなかったかのようによつたり浮かんでいた。

2日目も語り部が南三陸地区を案内してくれた。「海から300m離れた所にあった戸倉小学校では地震の揺れが収まると同時に生徒全員を校庭に集め、迅速に高台に避難した。3階建の校舎は屋上まで水没したが、犠牲者は一人も出なかった。『地震が来たら津波』と繰り返し行ってきた避難訓練のお蔭である」と力説。しかしながら、最近では町内の避難訓練に参加する人の数が減り、災害の怖さが忘れ去られようとしていると風化を懸念していた。

今は赤くさびた鉄の骨組みだけが残る南三陸町防災対策庁舎（写真）の悲劇も語り継がれている。高さ16mもの津波が庁舎を襲った。職員の多くは屋上に避難、津波に流されないよう腰のベルトで体を手すりに縛り付けるなどして助かった人もいたが、43人の死者・行方不明者を出した。危機管理課の女子職員は最期まで防災無線で避難を呼びかけ続け、自分は逃げ遅れて津波の犠牲になった。彼女の行動は

「多くの人命を救った命懸けのアナウンス」と大きく評価されている。遺族たちの防災庁舎解体を望む声強いが、震災遺構として保存すべきか町民の意見が割れているとのこと。

陸前高田といえば「奇跡の1本松」である。景勝地であった松原は全くその面影はない。高台に住宅地が造成されており、そこから出る土砂で地盤沈下した松原一帯のかさ上げが行われていた。土砂を運ぶ巨大ベルトコンベアが縦横に走り、その脚立が乱立している。マスコミで大々的に取り上げられた「奇跡の1本松」はコンベアの脚立の合間にかろうじて確認できる程度であった。

大船渡での昼食会では地元の中学校の校長を務め、現在、教育長をしている校友から話を聞くことができた。最大の問題は家族や友達を失った子供達の心のケアだという。友達と離れて避難先で暮らす日々、大きな音すらたてられない狭い仮設住宅での窮屈な生活・・・環境の変化によるストレスは大きい。1995年1月の阪神・淡路大震災での経験を活かし、当時の医師たちが子供達のカウンセリングに当たっているという。「震災で友達が急にいなくなったり遊ぶ場所がなくなったりした。子供が子供らしく友達と騒げる場が必要だ」と説く。

大船渡・盛駅（始発駅）から全線開通したばかりの南三陸鉄道に乗った。終点の釜石駅まで約50分の旅。平日の午後ということもあって乗客は少なく、ほとんどが学校帰りの生徒であった。途中はトンネルが多いが車窓から眺める入江はのどかで、海面は初春の光で輝いていた。変化に富むリアス海岸が逆に津波の被害を大きくしたのだらうと思いながら窓の外を眺め続けた。

電車が釜石駅に着くと大船渡の盛駅から一緒だった運転手も降り、駅舎の外に出た。どこに行くのだろうと思っていたら、我々が乗り込むバスの横に来た。バスが動き出すと我々に深々と頭を下げ、いつまでも手を振ってくれていた。心から感動した。

被災地はどのような街に生まれ変わっていくのだろうか。街は再生しても死者15,891人、行方不明2,584人という数の重みは決して変わることはない。



花を手向ける人が絶えない南三陸町防災対策庁舎

会員の広場

早稲田「らしい」国際化を



加藤丈太郎（平成16年教育）

早稲田大学は2033年までに学生の20%を外国人学生とすることを目標に掲げています（Waseda Vision 150）。日本で国際化に最も力を入れている大学のうちのひとつです。

筆者は早稲田大学の国際化を目の当たりにした世代です。教育学部社会科社会科学専修を2004年に卒業し、大学院アジア太平洋研究科（通称GSAPS / Graduate School of Asia Pacific Studiesの略、在学生は「ジーサップス」と言います。）を2006年に修了しています。GSAPSでは、2014年現在約50か国の学生が学んでいます。学生の約7割は外国人です。授業は日本語と英語で開講され、修士論文も英語で提出が出来ます。英語だけで修了も出来ます。

期せずして、私の指導教官はアメリカ人でした。初回のゼミに出席した際、先生が話している内容の半分くらいは分かりません。ゼミ生はアメリカ、イギリス、カナダ、韓国、台湾、バングラデシュ、フィリピン、ポーランドなど様々な国から来ていて、ゼミでの使用言語は英語のみという環境でした。当時、英語がさほど話せなかった筆者はパニック状態になりました。英語が話せなければ、自分の研究計画も指導教官に相談出来ないわけです。

ただ、人間は必要に迫られると不思議な力を発揮します。筆者は指導教官を昼休み中拘束（！）して分からない点を質問しまくり、夜も、中央図書館の研究書庫が閉まる23時まで英語文献と格闘しました。その甲斐あって、英語を身につけました。

英語が使えるようになると、GSAPSの外国人学生が孤独な状況に置かれていることに気が付きました。GSAPSは早稲田キャンパスから少し離れた、きれいなビルに入っていて、院生専用のラウンジまであります。他学部・大学院の学生との交流が生まれにくい状況であったと言えます。ある外国人学生の友人が「日本では、大学とコンビニにしか行ったことがない」と言ったとき、筆者はショックを受けました。これではいったい、何大学に来ているのかわかりません。GSAPSも早稲田大学の一部なのに。

学部上がりで「ワセキチ」の卵だった私は少しでも外国人学生に早稲田大学で思い出を作りたいと決意しました。GSAPSのラウンジで「早稲田大学校歌」や「紺碧の空」の歌唱指導をし、野球早慶戦に繰り出したのです。静かな、観葉植物が置いてあ

るようなラウンジでそれは目立ち、「校歌を熱唱している人」で一躍研究科の有名人になりました。神宮球場で外国人学生と肩を組んで紺碧の空を歌ったのは今でも良い思い出です。



筆者は2010年4月より、日本に暮らす外国人住民が抱える問題を解決するNPO法人Asian People's Friendship Society (APFS) (<http://apfs.jp>)を東京都板橋区に開き、活動しています。30ヶ国120名以上のケースを抱え、孤立しがちな外国人住民が、周りの人と触れ合い、問題を解決できるように日々サポートしています。大学院時代に書物だけでなく、実際に外国人学生と触れ合った経験が筆者を今の道に導いてくれました。

NPOだけで生計を立てるのは難しく、早稲田大学の主に1年生を対象にオンデマンドでのライティング指導をしています。「日本に暮らす外国人が抱える問題を挙げ、論ぜよ」という課題が出た週のことでした。ある学生が「なぜ、日本人である私が外国人なんかのことを論じなければならないのか」と質問を書いてきました。質問には丁寧に回答をしましたが、筆者はこの質問に強い危機感を覚えました。

もし、早稲田大学が「国際化」を目指すのであれば、外国人学生の「量」を増やすだけでなく、「国際化」の「質」を向上させて欲しいと願います。仮に外国人学生と日本人学生が「分離」しているような状況では、「国際化」とは言えません。

様々な国から学生がやってきて、多様な価値観に触れられることは、日本人学生にとっても間違いなくプラスであると筆者は信じています。「国際化」は元来からの早稲田大学の良さである、人材の多様性という点にも合致します。

稲門会の活動に参加するようになり、野球早慶戦、ラグビー早明戦などを再び見に行くようになりましたが、外国人学生の姿はほとんど見かけません。外国人学生には早稲田大学の伝統に触れ、早稲田大学をもっと好きになって欲しいと思います。そして、日本人学生には外国人学生とより「交流」し、真の意味での「国際化」した早稲田大学を作り上げて欲しいとOBの一人として願っています。

世界遺産『ミディ運河』クルーズ



服部 尚彦（昭和35年 理工）

丘に走る線路より高い石橋梁、河川の橋の更に上に掛かる石橋、そこにカラフルな船が通っている。考えられない所に水路が有るらしい。昔、ヨーロッパで見た此の点景に、機会があれば此の様な所をクルーズしたいと思い続けていました。此の年になって漸く機会に恵まれ、宿願を果たす事が出来ました。

○ どこをクルージングしたか

クルージングをした場所は、17世紀に南フランスを縦断して、ジブラルタル経由より3,000kmもショートカットして地中海と大西洋を結んだ世界遺産の大運河です。

ピエール・リケは、大西洋側に流れ込むガロンヌ川の源流、海拔450mに貯水湖を作り、他方は複雑な地形に絶えず此の水を供給しつつ進み、水路を7運河橋と64を越すロック（閘門）とで水位調整して地中海に繋ぐ長さ240kmの運河建設を14年掛けて成し遂げました。

今回の旅行は、乗船地カルカソンヌから下船地アグド経由、地中海に面するトー湖までの約140kmを一週間掛けて船旅をするものでした。

○ どのような船で走ったか

船はキャナル・社の長さ12.9m、幅4.2mの大型船を借りました。同乗メンバーは家人、息子家族、友人を含めて6名でしたが、船は8名用、キャビン、大型ラウンジ、キッチン、シャワー、トイレ、洗面台、フライブリッジ等装備されていました。操船技術、動力油、バッテリー、給水などに関する知識は30分程度の実技訓練と簡単なレクチャーだけで、直ぐ船の鍵を渡されました。船は、制限時速8kmで、規程では船舶免許を必要としないのです。

○ 大型船を無免許運転した

操船は車と比較して、前進、後進は兎も角も、方向を変える舵が後方にあり、船体は大型バスの長さ、幅共1.4倍位大きさの平底船ですし、船自体に直進を保つ機構は無いので、車とは大分勝手が違いました。

時々運河の流れに船が直角になり、周囲のブッシュに突っ込んで抜け出すのに往生しました。しかし、数日後は全員が船長気分を楽しめ、息子等は縦列駐船、後退による並列駐船、方向転回など難操作も巧みになり、お任せでした。

○ 航路と周囲の景観は

航路幅は十分にあり、途中数箇所には比較的大きな街に隣接したポートがあり、給電、給水が可能です。17世紀から続く航路で特に狭い場所は、ロック内、世界初の手掘りマルバ運河トンネル、多くの石橋でした。船の幅ギリギリなので、突端に金具が付いた棒で船の両舷で守る係、操舵士は低い橋底を伏せの体勢でやり過ごす必要がありました。航路の周り是一片の葡萄畑やのんびりした田舎の風景が続き、航路は左右、南北に大きく蛇行す

る変化に富んだ航路でした。南フランスの夏の厳しい日差しを避ける為に、両岸には45,000本のプラタナスと糸杉の並木が延々と植栽されて緑のトンネルを作っています。

航路は所々で大小の川と交差し、オルブ川を跨ぐ98mの世界初のベジエ大運河橋をはじめ、多くの跨川石橋が出現していました。此の風景こそ旅の願望の発端であった訳です。初め船上生活は退屈ではないかと心配でしたが、操船、狭い石橋通過、トンネル通過、頻りに現れるロックで船側、岸側での舫操作などは全員配置、港での給水、給電等で、退屈の文字は杞憂でした。名物であるロックは4隻程度で満杯、特にフォンセランの7段連続ロックは22mの水位差を一気に調整する場所で壮観でした。

○ 陸中のクルージングでの楽しみ

船尾には国旗をはためかせ、岸にベグ打ち込みでの係留、大規模ポートでの係留後、田舎町の観光、土地レストランでの賞味、土地産物の買出し、ワイナリー、古代要塞都市遺跡の見学を楽しみました。生活シート、タオルの交換などはポートでサービスをしてくれますし、離船時と夜間は施錠とカーテン締めをする程度で快適・安全でした。

航行中は屋上のフライブリッジでの緑に包まれた飲食でユツタリとした時間を味わいました。行き交う観光船や同類船、両岸の小径のサイクリング、トレッキングの人達と手を振り合い、街中もフレンドリーで、外国での心理的疎外感はなく感じる事無く快適でした。下船地アグド経由して地中海に接するトー湖、マルセイアン街、アグド街の散策後、遂に離船時には、一週間愛着を感じて来ただけに寂しささえ感じました。

○ 結びとして

近頃は旅行社お任せに慣れていたので、現地集合、現地解散の計画作りは久しぶりで不安が先に立ちました。しかし、多方面に活躍する嘗ての同僚・友人の助け、豊富なネット利用時間など、此の年齢でこそ企画が出来ることを実感した事や個人的宿願を果たせた事を喜んでおります。



（ご参考）此の旅行の切掛けは、フランス観光局のHPでも紹介されている運河旅行代理店（有）アドバンティス（代表：矢部静樹氏；友人）が作って下さいました。皆様も気持ちの若い内には是非トライされては如何でしょうか。

TEL：03-5314-5424、E-mail：info@canal.advantis-jp.net
http://canal.advantis-jp.net/

新入会員



佐藤隆巧（平成27年 先進理工）
（世田谷区代沢在住）

趣味：スポーツ観戦 将棋

現在は世田谷区に住んでいます
が、小・中学校時代は目黒区に居
住していました。

校友会便り

——23区支部大会に参加——

3月8日（日）、浅草ビューホテルで校友会23区支部大会が、鎌田総長ほか来賓を含め約300名が出席して盛大に開催されました。目黒からも吉田会長以下13名が参加しました。

冒頭、2015稲門祭の実行委員長として目黒稲門会幹事の中西千可子さんが紹介されました。

会の第1部は樋口清秀・早稲田大学国際学院教授の講演。第2部の懇親会は地元浅草芸妓組合の綺麗どころによる華やかな踊りと吹奏楽団・チアリーダーズを伴った応援団の演技が披露され大いに盛り上がりました。



（地田 記）

中西千可子さんの2015稲門祭実行委員長メッセージが早稲田学報4月号に掲載されましたので、ご本人の了解を得て転載します。（編集委員会）

2015稲門祭 メッセージ

実行委員長 中西千可子

2015稲門祭では早稲田大学が描く未来「Waseda Vision150」を支える校友の方々に対して、早稲田大学校友会という組織をさらに理解し、参加していただく最良のきっかけになるように、さまざまな企画を用意して早稲田の森でお待ちしたいと思います。

大学において教育と研究の2つはもっとも重要で

す。母校は、学生たちが勉学するためのよりよい環境作りに地道に取り組み、多様な研究分野において目覚ましい成果を生み出しています。これからも一歩ずつ歩みを進めて、世界の大学の中で確固たる地位を築いてくれることを信じています。次世代につながってゆく母校の歩みを少しでも応援したい思いで、今年のテーマは「The Next Generation !!

ステップ・バイ・ステップ、早稲田の未来へ。」としました。

これまで有形無形に校友会を支え導いてくださった校友の方々、2032年の創立150周年を支えるだろう若い年代の校友の方々、その時期に早稲田を目指し夢を抱ける子供たちを楽しんでいただけるように頑張ります！そして、校友のみならず、地域住民の方々、早稲田が少しでも気になる方々、どなたでも、どうぞ10月18日（日）に早稲田にお越しください。心からお待ちしております。

事務局便り

「目黒のサクラ基金」に寄付金贈呈

平成27年2月27日（金）吉田会長、幹事長、および副幹事長の3名で目黒区庁舎を訪問し、吉田会長より目黒区のサクラ基金として寄付金10万円を青木区長に贈呈しました。青木区長からサクラ基金寄付への謝辞と目黒の桜のイベントが経済効果をもたらす反面、トイレ、夜間の騒音、交通規制等の問題に苦勞している現状説明がありました。



（金井 記）

編集後記

部会活動の活性化を目指して3年前にスタートした部会PRの連載コラム「ようこそ部会活動へ！」が、前号で終了しました。この記事をお読みになって部会活動に新たに参加いただいた方もおられると思います。これからは特別なコラムはもうありませんが、毎号の会報の中で各部会報告の充実を図り、会員の皆さんに楽しい活動の様子をお伝えするようにすすめて行きます。皆さんのご参加をお待ちしています。（地田 記）